

「発達障害を疑われる子どもの保護者理解」

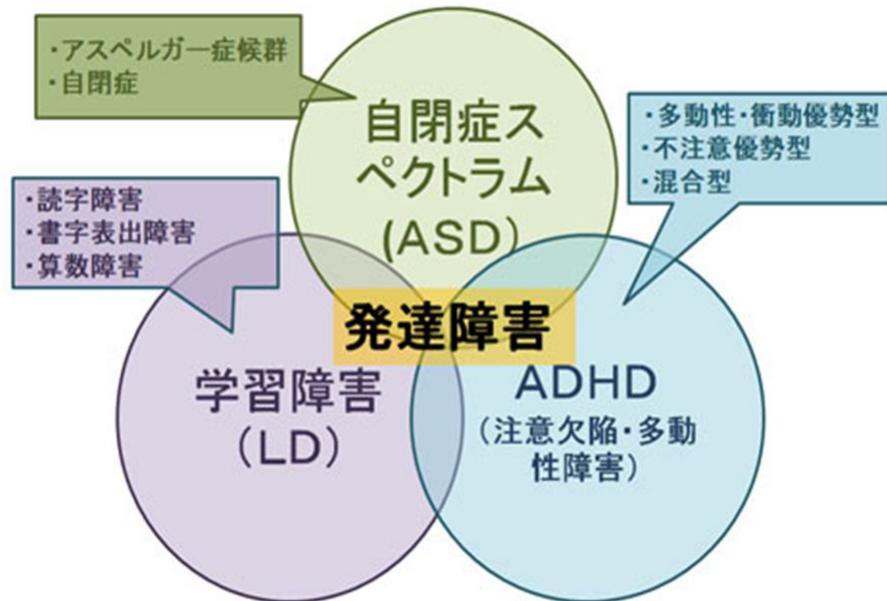
◎ 保育現場の発達の気になる子どもたち

発達障害の子どもたち・・・見た目ではわからない・わかりにくい

理解されにくい本人のつらさ

理解されにくい保護者のつらさ

・親の育て方に問題があるのでは？ 等々



①知的障害:ダウン症など (資料参照)

ダウン症:21番染色体の過剰(共通の特徴的な顔立ち、身体的特徴など)
知的な遅れのほかに、先天性心疾患などの合併症がみられる。

②姿勢・運動の障害:

脳性まひ
脊椎損傷
進行性筋ジストロフィーなど

③発達障害:AD/HD, ASD, LD

自閉症スペクトラム(ASD)の主な3つの特徴
・社会性
・コミュニケーション
・こだわり行動

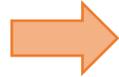
※診断できるのは医師のみ

⇒ 乳幼児健診(1歳6ヶ月児健診, 3歳児健診)の重要性

障がいの特性を踏まえた支援とは

◎困る場面 → 問題となる言動の正確な把握

- ・困っているのは誰か？ 本人？家族？友だち？保育者？
- ・困らない場面(本人が穏やかで安定している等)に目を向けてみる



支援の基盤

- ・「〇〇な子」と決めつけない～背景に隠れた意味・思い・原因を想像する, さまざまな視点からの理解

- ・こだわり ……細かな違いに気づく ということ
- ・常同行動 ……どういう場面？ 手持ち無沙汰, 何をするのか
わからない時に多い
- ・怒り, かんしゃく……予想外のことへの不安・混乱が怒りへと
結びつきやすい
- ・奇声……感情表現の難しさ

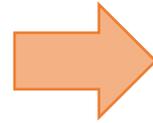
◎肯定的な捉え方・かかわりの工夫

- ・ほめる時も叱る時もシンプルに, 伝える時は具体的に → 見やすさ・わかりやすさの工夫

場面による特徴の把握と分析

(例)

- ・自由活動、課題活動場面による違いは？
- ・家庭と保育の場(幼稚園、保育園)、療育現場等、場所による違いはあるか？
- ・人による違いはあるか？



支援のポイント

- ・まずは本人の好きなことや得意なこと(本人の心の拠り所となっていく)を尊重する。
- ・一番気になる課題は何か。その課題解決に向けて、今、できること・これからできそうなことは何か。
 - 課題に取り組むには、自己肯定感・自信・意欲が重要。

◎いかなる場合も自尊心・自己肯定感を大切にしたかわり
～温かなまなざしを忘れない。

発達障害の子どもを育てる親の思いとは…

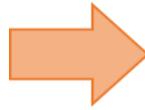


【取材】『発達障害の子育て』（ヤフーニュース特集2017年5月）～YouTube から

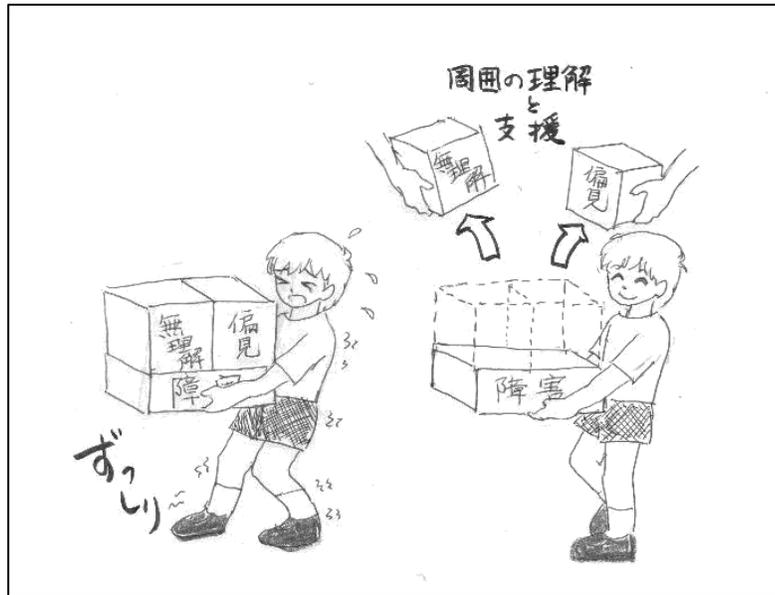
◎ 発達障がいの抱えるもうひとつの深刻な問題 → **二次障害**

二次障害を考える

理解されにくい本人のつらさ
理解されにくい保護者のつらさ
・親の育て方に問題があるのでは？ 等々



自己肯定感・自尊感情の著しい低下
自信・意欲の低下
人への不信感
人とかかわることへの不安 など



障害の種類・程度にかかわらず、そこにはさまざまな
本人の思い・親の思い・家族の思いがある

二次障害とは・・・元々の障がいをもつ特性による生きづらさや
周囲の理解不足などから生じる、本来の障がいとは異なる
困難や苦しみ、新たな課題のこと

保護者の思いに寄り添うということ

発達障害のわが子を持つ保護者の思い

「もしかしたら、他の子とちょっと違う？」

… 日常生活や保育場面で、ふと感じる違和感と不安

「私の育て方が悪かったの？」

… 自身を責める、責められている感覚

保育者の悩み

なぜ思いが伝わらないのか？ どう伝えたらいいのか？

⇒ 困っているところや課題への相談対応だけが支援ではない。

「子どもの成長の喜びを共有すること」

「保護者が子どもの成長の喜びに出会える保育をめざすこと」

もまた、大切な視点

*中には、保護者自身に子どもと似た発達特性がある場合も

発達障害の子どもとその保護者を支えるために
保育者に求められるもの

◎発達理解など、子どもの育ちに関する確かな基礎知識

◎子どもの幸せと豊かな育ちを支える保育

◎保護者との信頼関係をつくることの重要性

+

◎他の専門機関との連携

◎親子の日常を支えるということ

子どものことをどう伝えるか…

・まず、いいところ、プラスのメッセージを優先的に

・保育者の子どもへのまなざし

=保護者へのまなざし

・子どものことを伝える際に、主語を保護者に置き換えて考えてみると…